

写真 1 6号氷河とモレーン状の岩屑被覆氷河（2003年7月撮影）。

上：6号氷河（ウルプト氷河）の全景をウルプト峠直下から見る。長さ約1.5kmの谷氷河でまず北に流れ東に向きを変える。中央の岩壁にかかる小型の円錐（崖錐型）氷河（末端は岩屑被覆）が下流部に合流している。

下：氷河末端に接して存在するモレーンの地形を近くから見る。このモレーン地形は岩屑被覆氷河であることがわかった。

写真 2 6号氷河の末端とモレーン（岩屑被覆氷河）を右岸側のラテラルモレーンから見下ろす。

左：1983年，右：2003年，流水の侵食と，氷河融解-沈下によると考えられるモコモコしたハンモック状地形が観察できる。

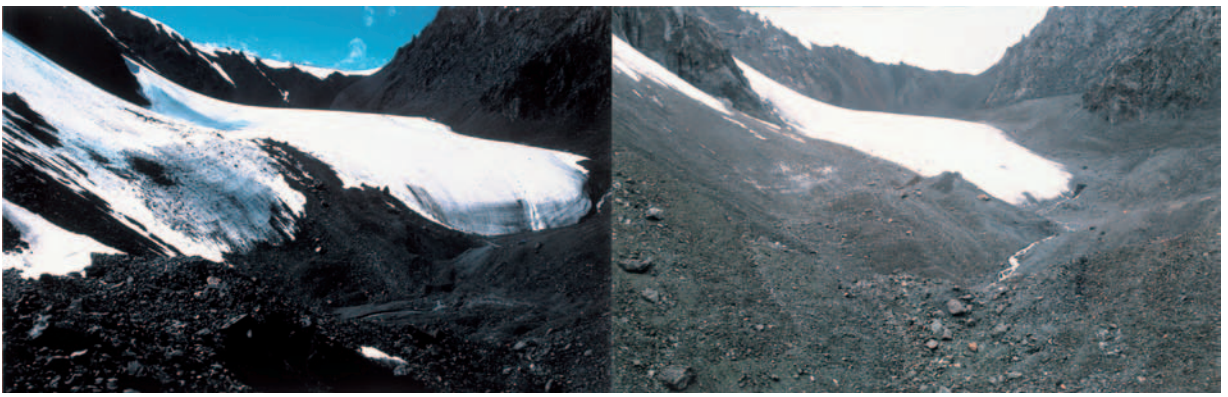


写真 3 6号氷河の末端と岩屑被覆氷河の様相変化。  
 左：1983年，右：2003年。  
 右側の主氷河水舌縁の位置は100 m以上後退した。左側の円錐氷河は2003年には裸氷の面積が大幅に減少した。写真中央部はリッジ状に張り出し、氷河は部分的に前進したといえる。



写真 4 ウルムチとコルラをむすぶ幹線 216 号線の勝利峠（達坂）直下の周氷河岩屑斜面。ここで斜面発達の子察的な調査をおこなった。斜面走向・傾斜，岩屑層厚，礫種・径・長軸走向・基盤岩種・節理間隔・節理走向を測定した。左端は3号氷河の上部。

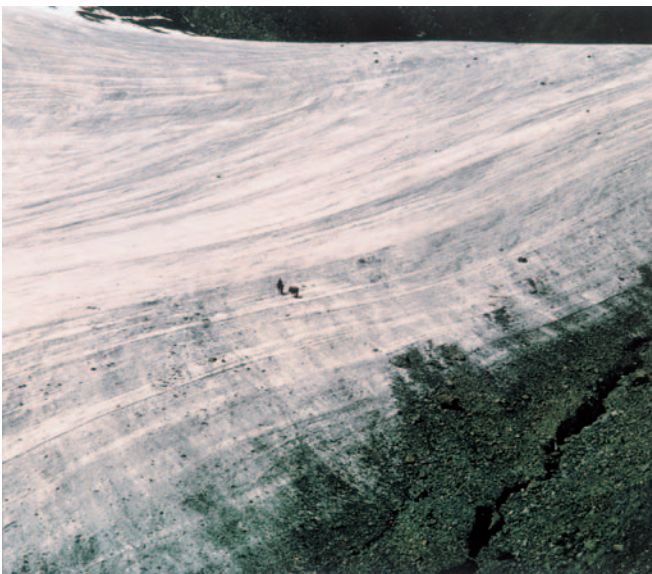


写真 5 6号氷河の消耗域側面の裸氷を登る2頭のウマ（写真中央の二つの点）。カザフ牧民の乗るウマ（左）が荷を積んだウマを曳いている。